学校番号	３０２２

令和２年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高等学校「美術１」（光村）						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・美術の目的は表現力を身につけることです。表現力とは、皆さんが持っている漠然とした印象を明確な形で表すことができる力のことです。空間の認識力・把握力や形や色を自分の美意識で形づくる構成力も含まれます。いわば逞しいプレゼンテーション力をつける学習です。
・美術の授業には、実際に描いたり作ったりする内容と先人や他の人の作品に接して、自分の見方を深めたり伝統的・歴史的な表現を理解する鑑賞の授業があります。
・将来の表現者を育てると共に、生活の中に美術を活かせる、豊かな感性を持った未来の多くの鑑賞者を育てることを美術の目的の一つとしています。未来の古典を創造しましょう。豊かな表現力と鑑賞力は未来の力です。

2　学習の到達目標

１、幼児教育における「造形あそび」から始まり、小学校の「図画工作」と中学校での独立した「美術」教育で生徒が得た表現力と創造性および鑑賞の能力をふまえて、より高度で多様な表現力を供えたプレゼンテーション能力に高める。
２、発想方法の訓練からその具体化へのプロセスを体験し、確かな表現力・創造力を組織的、体系的に育成する。
３、描写力や構成力といった基礎的な表現力をつけ、高校後の多様な専門教育に対応できる高度の能力を育てる。

3　学習評価（評価基準と評価方法）

	a:美術への関心・意欲・態	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	力強い表現力をつけようとする意欲。 教材を総合的・学際的に考える能力。 芸術領域にとどまらない広い視野に立った表現方法への興味と取り組み。 国際的視野と歴史的・伝統的観点。	発想の具体化のプロセスを経験し自分のものにできたか。 表現を楽しみ、描く作ることの面白さを感じることができたか。 美しい色、機能的な形、説得力のある表現形態を創造できたか。	創造力と技能は相互補完的な働きをする。 表現に必要な技能が身についたか。 表現に自分らしさや工夫が見られるか。	他人とは違う、自分らしい見方ができているか。 鑑賞が実作に反映できているか。 文化遺産・伝統芸術への関心を持ち、知識としての蓄積が見られるか。
評価方法	制作への準備 制作態度 提出物の充足度 制作物の扱い	提出物 　制作途中のラフスケッチやアイデアスケッチの数量と内容 完成作品の観点別評価 　指導内容との整合性・充足度の段階的評価 制作物の密度	制作途中の作品や提出物について、予想以上の成果を期待し、より積極的に評価する。 技術的な成果、精緻な表現等について評価。	鑑賞レポート 作品制作のための研究段階での参考作品調査と鑑賞の豊富さ。

上に示す観点について、学期ごとに数値による評価をし、学年末に５段階の評定にまとめる。
また、授業成果は、適宜校内ギャラリーで、芸術発表会ギャラリー部門として展示公開する。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価基準	評価方法
Ⅰ学期	芸術・美術について	・オリエンテーション 美術の授業の目的 教科書等を参考に表現の多様性を理解する。 美術の学習について理解する。 用具の説明と記名の指示 用具置き場の案内 ・予備練習・想定問題 鉛筆による描画練習 想定された空間を表現する 建築や造形工学系の入試問題を体験する。	 ○ ○ 	 ○	 ○ ○	 ○ 	d 表現の多様性を知り、様々な立場や考え方に基づく美術表現のあり方を知る。 a 美術の授業の目的を知り、自己実現の方法として考える。 c 用具を効果的、的確に使用するための方法を知る。 b 空間把握と立体・空間表現の初歩を実習する。	学習活動の観察 提出課題
	立体主義的静物画 油彩	・２０世紀の革命的表現方法である立体主義の参考作品の鑑賞と理解 参考作品（ピカソやブラック） ・Ｆ１０号（板貼キャンバス）の地塗り 油絵の具の使用法の説明 独特の乾燥課程の理解 準備と片付けの説明と理解 ・発想から具現化への過程を指導 用意したモチーフを見ながら ラフスケッチを描く（４点） ・ラフからエスキースへ ・各段階での表現訓練と実作 画面構成と傾倒的配色	 ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ 	d 立体主義的絵画の取材を興味を持っておこなった。 a 関心　意欲　態度 a ラフスケッチ・エスキース b 完成までの３段階の提出物 c 構成力・表現力を評価 色彩（彩色）計画・統一性	学習活動の観察 学習活動の観察 制作途中の各段階での提出物 提出物
	水彩画	・風景スケッチ 参考作品の鑑賞 ・透明水彩の使用法の指導 ・透明水彩による鉛筆淡彩描画法 ・屋外写生のマナー	 ○ ○	 ○	 ○ ○	 ○ 	d 多様な表現方法の理解 c 色のバリエーションの多様性 b 鉛筆描画を深める a 写生場所の後片付け等	学習活動の観察 制作途中 提出物 制作の様子
	鑑賞	・展覧会鑑賞レポート 質の高い展覧会を選ぶ （１件以上）	○			○	a 鑑賞力・洞察力・観察力 自作への応用 歴史的・文化史的観点	提出物

※表中の観点について、a、美術への関心・意欲・態度　b、発想や構想の能力　c、創造的な技能　d、鑑賞の能力と

※年間指導計画作成上の留意点

原則として、一つの題材で全ての観点について評価することになるが、学習内容の各項において特に重点的に評価をおこなう観点について、○をつけている。

Ⅱ学期	建物を描く　油彩	・鉛筆による建物スケッチ 本館（登録文化財）を中心に 建物の構造を把握しながら 素描→着彩エスキース	○	○		○	a 建物の構造の把握と表現 b 建築物に見いだす美　空間把握 d 建築の形への関心　美意識	スケッチ エスキース
		・スケッチをもとに教室内で制作 油画 建物の構造の美の発見 遠近法による奥行きの表現 画面構成 配色計画		○	○ ○		b 形の面白さの気づき c 描写力　表現力 c 独創性　構成力	学習活動の観察 途中経過 完成作品
	４版16色刷り木版画	・参考作品の鑑賞 浮世絵、生徒作品等を鑑賞し 伝統的表現の意味や制作過程 について関心を持つ。	○			○	d 浮世絵の作者について研究 a 色の重なりについての興味	ワーク シート
		・立体主義的静物画を元にした 着色原画の制作　配色計画		○	○		b 色の重なりと配置を考える c 形の大きさ・色の変化を考える ラフスケッチ→エスキース	ラフ スケッチ エスキース
		・転写と色分解 エスキースから版木への転写 色分解と４版への配色割当て 着色部と非着色部の確認		○	○		b 系統的・論理的思考力 c 総合力・空間把握力 洞察力・推理力・制作技術	提出版木
		・彫り 彫り方の指導　安全確認 見当の意味と確認 色版ごとに違うパターンを確 認しながら４版を彫る	○		○		a 長時間の作業に耐える能力意欲 c 用具を使いこなせる能力 効果的な処理能力	提出版木
		・刷り 用具の使用法を確認 ４色の刷り重ね順を確認 ４版を重ねて刷る	○		○		a 印刷用紙を慎重に扱う 印刷順・用紙の上下左右の注意 c 見当の活用	提出作品
		・サイン プリントナンバーの意味と その他の記号について サインの位置と方法	○				a 一般的な版画における興味	
	鑑賞	・展覧会鑑賞レポート 質の高い展覧会を選ぶ （１件以上）	○			○	a 鑑賞力・洞察力・観察力 自作への応用 歴史的・文化史的観点	提出物

Ⅲ学期	自画像　名画の中の私　油彩	・自画像の元になる人物画を探す よく知られている作品 具象的で描きやすい内容	○	○			a 様々な名画を楽しみながら 自画を組み込む人物画の選定 b 自画との効果的な組み合わせを 考える	学習活動 研究活動 の観察
		・鉛筆によるドロウイング 表情を向きを変えた自画像の 素描４種　光源との関係	○	○	○		a 深く強い表現を求める意欲 b 様々な表情をドロウイング c 光と影を考えながら表現	提出物
		・元になる絵画の顔の向きを光の あたり方に合わせて素描 ・同時に写真撮影		○	○		b 元絵とのマッチングを考える c 双方の光と形、大きさを考えな がら素描	提出物
		・板貼りキャンバスに素描		○	○		b 着彩前段階での最終的な表現の 調整 c 絵画としての面白さと美しさ	途中経過
		・人物の表現を研究しながら着彩		○	○		b 着想の面白さ c 表現力	提出作品
	野外彫刻の立案	・野外彫刻研究 仮想空間の設定	○				a ネットや図録を見て研究する 形態や材質への興味と洞察 b 社会的意識と設置空間の整合	ワーク シート
		・野外彫刻の立案（エスキース） 空間の状況を検討 立体造形物の検討 大きさ　材質　構造	○	○			b 社会的意味のある空間の仮定 形態の面白さ　美しさ c 造形物の発想と制作技術の推定	提出物
		・完成予想図の制作 鉛筆によるドロウイングと 透明水彩による着彩			○		b 空間の表現力と説得力 c 絵画表現の技術的完成度	提出作品
		・プレゼンテーション 作品を提示しての提案作業				○	a 自作についての理解と説明 b 説得力	プレゼンで の発言内容

※表中の観点について、a,美術への関心・意欲・態度 b,発想や構想の能力 c,創造的な技能 d,鑑賞の能力とする。
※年間指導計画作成上の留意点 原則として、一つの題材でa～dの観点について評価することになるが、学習内容の各項目において、重点的に評価をおこなう観点について、○をつけている。